

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域に住み続けたいとの願いが実現できるように、そしてその人らしく元気に安心して暮らしていただけるように職員全員で実践しています。いつでも振り返られるように、見やすいところに掲げてあります。	法人理念を基にグループホームの方針を打ち出し、住み慣れた地域で安心して生活が出来るように支援している。職員は理念・方針を理解し、毎日の生活で実践している。今後は外部の方に分かりやすく書いたものも掲示していただければ良いのではないかとと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菅平地区の方が多く馴染があり、宅老所と併設でもあり面会も多く地域の一員として認めていただいています。近所のお店や床屋さんなど利用して日常的に交流があります。いろんな面で応援していただいています。	自治会費を納め、会議への出席や草取りなど一般の家庭と同じように参加している。隣接の宅老所利用者の中には顔見知りも多く、交流が日常的に行われている。ボランティアの「お助け隊」などの受け入れも盛んである。法人の他のグループホームとの入居者同士の交流も盛んに行われている。ホーム便りを自治会35支部に配布し回覧していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方が時々寄ってくださったり、野菜を頂いたりとありがたいことです。実習生やボランティアさんの受け入れは、地域柄少し難しいところもありますが、積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員の方々に事業所を知って頂く事は有意義な事だと感じています。会議での意見はサービス向上に役立っています。具体的な課題について話し合い、理解と支援を頂いています。	即実践につなげられるような活発な会議が行われている。ホームの状況報告や委員の方々からの課題への発言など、サービス向上に向けて活用している。多方面から委員の方の参加がある。地域柄、冬のスキーシーズンや高原野菜の収穫期などは常に委員の方々も忙しく、2ヶ月に1回の開催が難しいことがある。	議題によっては全委員の出席でなくても、書面で意見・提案・要望等をしていただき、開催可能な形を検討していただきたい。内容によっては委員以外の関係者の協力や参加を得て2ヶ月に1回の開催ができるよう調整していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、地区役員様の都合の良い日に開催しております。地域柄夕方や、他の行事日と同時日に行う為どうしても参加していただけない「会議録」を提出しています。	運営推進会議の出席の依頼を市窓口まで行き情報などを交換している。年4回、「介護相談員」の受け入れを行っている。地元地域は合併により上田市となったため、市の職員の異動などがあり、新部署との関係作りは徐々に進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が危険箇所を把握し、目配り、気配りで安全を確保しつつ自由に生活して頂ける様な支援を行っています。	法人全体の方針により「身体拘束の排除」を唱えている。職員は研修を通じ理解し、日中玄関の施錠はしていない。外出傾向の入居者には本人が納得するまで職員が付き添っている。チャイムに頼ることなく職員の見守りで対応しており、開設以来離設による混乱は全くない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守する様努めています。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されることがなく、十分な理解が出来ていません。毎月行っている勉強会を利用し勉強して行こうと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用されるについて体験をしていただいたり、契約の内容について時間をとって説明しています。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、については詳しく説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気作りにも留意しています。又、介護相談員の訪問もあり、利用者が気軽に外部の方に相談出来る様に配慮しています。	入居者の家族が頻繁にホームを訪れているので職員は家族と会話する機会が多い。会話をする中から質問や要望等、気軽に話していただいている。家族よりの意見を受け、改善に結び付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞く様に心掛けています。日々の会話の中からも感じられる様話を良く聞く様に心掛けています。利用者との日常的な関わりの中から生まれる職員の気づきやアイデアは積極的に取り入れています。	定例会が毎月1回行われている。毎日の引き継ぎ時には職員の意見交換が活発に行われている。統括リーダーと管理者による職員の個別面談も毎年行われ、職員の意見や要望を聞いている。職員はその都度感じたことなどを発言している。法人内に各種委員会があり、ホームの職員も参加し業務の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の努力や実績、悩み等把握する様努めています。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応もしています。職員の資格取得についても勉強会等開いて積極的にバックアップしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議が毎月あり会議であったり勉強会であったりします。施設内研修会も実施されています。又2ヶ月に1回のグループホーム勉強会を開催して職員が学ぶ機会を多く作れる様努めています。資格取得の為の勉強会も開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHさんとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上いく活動や勉強会、ネットワークづくりを行っています。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に会って生活状況や心身の状況、これからどのようにしたいのかご希望を聞くなどして安心が得られる様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞く様にしています。相談にいらしたご家族等の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認し体験出来る状況であれば体験していただいています。利用する状況になれば必要なサービスにつなげる様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係ではなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族の様な関係でありたいと思っています。出来る事に着目し、得意な事を楽しみながらやっただき、お年寄りからいたわりや励ましをいただく事もあります。感動感激メモがあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ありがたいことに、ご家族の面会は、どなたも頻回に来ていただいております。その為お年寄りの少しの状態の変化にもご理解があり、急な変化にも直に対応していただけるのはとてもありがたい事だと思っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理容師の方が訪問理容して下さったり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、併設の宅老所に出かけたりと、出来るだけ関わりがもてる様に努力しています。	関係を断ち切らず、入居者の第二の家として家族の方々が頻りに訪問し接してくれることに職員が感謝している。「お寺さんが来る日だから」といって孫が迎えに来て家に帰り、夕飯を食べてからホームに戻ってくるなど木目細かい支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度が高い方が多いのですが、菅平地区の以前からの知り合いの方が多かったり、地域柄外部の方も違和感無く受け入れていただけていると思います。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所間もないですが退居されると、疎遠になってしまいがちですが。お亡くなりになられた方のご葬儀や新盆にはお参りさせていただくようにします。また、病院入院長期により退去された方に面会に行ったりと、良い関係が継続出来る様努力していきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する様にしています。ご家族からも情報を得る様にしています。	介護度の高い入居者が多い中、全体での行事は難しい反面、個々での対応をより多くすることによりお互いゆっくりと話したり、表情、行動から感じ取ることができる。家族からの情報も得るようにし生の情報として活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族から情報を頂いています。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長ととらえていますので出来るだけ情報の収集に努めています。入居後も機会ある毎にお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知レベルが高い方が多いのですが、その中でも得意な事、楽しんで出来る事に注目し、関わる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させる様にしています。ご本人に意向に添った介護計画にしていきたいと思っています。	入居者・家族の希望を聞き、職員全員の気づきも取り入れ、カンファレンスで話し合いを行い個別に作成している。三ヶ月に1回の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来事、必要に応じて食事や水分量の記録を行なう事で、スタッフ間の情報の共有化を図っています。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	菅平高原クリニックとの連携が取れているので、終末期の対応が可能でありご本人やご家族の意向に添える様に努力しています。又、病院入院時の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力しています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所1年とあり地域の認知度が併設の宅老所と重なり、地域ボランティアの訪問はグループホーム単独でなく宅老所さんへの訪問になりそこへ参加する形になります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧める事はありません。ご本人、ご家族のご希望の応じて対応しています。病院受診はご家族に協力頂いています。往診に来て頂くケースもあり医療機関との関係を密にしています。	かかりつけ医については入居者・家族の希望に沿っている。協力医による予防接種や検診が行われている。協力医療機関の看護師と宅老所の看護師、ホームの管理者が月に1回情報交換をし、適切なアドバイスも頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の宅老所Nsや菅平高原クリニックのNsとの連絡会議等で、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。協力医療機関との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはなるべく多く見舞う様にしています。病院側、ご家族、との情報交換や意見交換を行いながら、早期退院に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし、同意をいただいています。ご家族、医師、看護師を交え話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っています。随時状況の変化をお伝えし、相談、意志確認しながら取り組んでいます。	開設から間もないためホームでの看取りの経験はないが、看取りに関しての職員教育は行なわれている。管理者は経験も豊かで、状態に変化がある時には医師の説明を受けたり、看護師、法人のグループホーム担当の統括リーダーや職員等とも相談や話し合いを行ない、いつでも対応できる状態にある。協力医療機関の医師や看護師とは必要時いつでも相談連絡が可能であり協力体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、年に1度救急救命法の講習を受講し対応出来る様にしています。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害などの話しが出来ます。夜間は職員が一人の体制になり非常時の連携には気を付けています。地域の方々にも気にかけていただいています。今年度から年1回の訓練には地域、消防の方にも参加していただきよう協力体制を頂いて行こうと思います。	避難訓練は同一敷地内の宅老所と合同で行われている。入居者・職員が参加し、車イスで介助しながら行われた。消防署への直通電話・自動火災報知器の設置などにより万が一に備えている。新年度は運営推進委員の方たちの参加と地域の方々への参加をお願いする予定でいる。	夜間は職員が1名になることから、入居者が少人数ではあるがホーム独自の訓練も考え行うことを希望する。

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄りを大切に、丁寧な言葉がけに注意しています。スタッフ間でもお互いに注意しあえるようにしています。	「入居者の尊厳」や「プライバシー保護」に関しては職員教育が徹底して行なわれている。入居者の方を苗字で呼んでいる。言葉がけや対応等が好ましくなかった場合には個別に話し合うなどしている。行動を起こす前に必ず声を掛け、呼びかけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意志や希望を大切にしています。意志を確認し、希望されない事は無理強いする事のない様にしています。言葉では十分に意志表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えています。お年寄りの希望を最優先する様にしています。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちに尊重し、個別的な関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿い、馴染みの床屋や美容院に行けるよう支援しています。個々の生活習慣や好みに合わせる様にしています。身だしなみは大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りと相談したり、一緒に買い物に出掛けて献立を決める様にしています。片付け等を共に行ったりしています。職員とお年寄りが同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしています。	買出しと一緒にいたり、後片付けをしていただいたりと出来る範囲で協力していただいている。誕生日にお寿司を取ったり、揚げたてのコロッケを食べるなど希望を取り入れている。入居者は職員と同じテーブルで介助してもらいながら同じものを食べている。きざみやトロミをつけるなど入居者にあった形態で調理がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きな物を楽しめる様配慮しています。今はいらっしゃらないのですが食事が充分摂れない方には、食事チェックを行い情報や気づき、アイデアを出し合い、嗜好品や食べやすい物の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っています。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方に関してはご本人の力に応じた口腔ケアを行っています。また、訪問歯科の指導もを行っています。夜間は義歯は義歯洗浄薬につけています。		

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考にして時間を見計ったり、様子から察知し、トイレ誘導、オムツ交換等の支援を行っています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討しています。極力ご本人が傷つかない様配慮しています。	排泄表が作成されており日常生活の中で活用されている。多くの入居者が介助を必要とされる方々であるが、トイレでの排泄を基本として声掛けしている。居室にポータブルトイレの持ち込みをされている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず、十分な水分補給と野菜中心の食事の提供をしています。買い物に出掛けたり、洗濯物を干したり取り込んだり、散歩に出掛けたりと日常生活の中で自然に身体を動かせる様に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間に沿って入浴していただいています。日中、夕食前、等それぞれです。入浴を好まない方に対しては声かけのタイミングや入りたくなるような誘い方の工夫をしています。入浴剤も好みに応じて使用しています。	毎日入浴は可能である。職員の見守りと介助で入浴している。少なくとも週2回は必ず入浴しており、時間帯は本人の希望があれば浴うようにしている。入浴を拒む場合にも強制することなく、本人の意志を尊重しつつ話しかけを工夫し、入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。眠れない方には、就寝時間にこだわらず、眠くなるまで居間で温かい飲み物など一緒に飲みながら過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をケース毎に保管し、内容を把握出来る様にしています。薬袋に飲み忘れの無いよう日付を入れています。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし、協力医療機関との連携を図っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など負担にならないよう気を配りながらやっていただいています。食事の準備、食後の食器洗い等役割になっている仕事もあります。やっていただいた時には感謝の言葉を伝えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等出来るだけ外出する機会を多く作るようにしています。歩行困難な方でも、戸外に出る事を積極的に支援しています。	食材の買い出しに職員と一緒に出かけている。車椅子の方も外の空気に短時間でも触れられるように職員が共に広大な敷地内を散歩している。法人の他グループホームへドライブを楽しみながら出かけ交流をすることもある。	

菅平グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には持っていていただきます。必要な時はご自分で払っていただいています。お年寄りがお金を持つことを阻害する事なく、店で希望される物を買ってご自分で支払いをしていただく事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で自室でゆっくり話が出来ます。贈り物が届いた時等、職員から声をかけ電話しやすい雰囲気作りをしています。ご家族や知人からの電話や手紙には、感謝しています。ご希望に応じて自由に電話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、共有フロアには常にお花を飾るようにしています。また、金魚を飼ってお年寄り、職員の癒し敵存在になっています。また、季節ごとの行事を取り入れています。	建物中央にキッチン・リビングがあり、各居室が見渡せる構造になっている。ほどよい空間と床暖房の暖かさ、テラスからの陽射しが冬の寒さを感じさせなかった。テレビの電波が弱くNHKしか入らないが、入居者の楽しみの一つとして4月からケーブルテレビが使用できる。家族からの差し入れのカラフルな手芸品が各所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に生活をしていただいています、一人で過ごしたい時はご自分の部屋で過ごされています。今は無理ですが、天気の良い日はテラスに出て花を眺めながら、気の合う同士で日向ぼっこをたのまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていた物等入居時にお願いしています。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらしゃいますので、相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫しています。	各居室ごと単独でエアコンの温度設定がされている。洗面所も備え付けられており職員介助のもと利用している。入居前に使用されていた道具を居室に配置したり、家族の写真を飾ったりと思い思いの居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「なにがわかりにくいのか」「どうしたらご自分の力でやっていただけるか」を職員で話し合い、必要に応じてご家族にも協力していただく事もあります。心身機能の状態の変化に考慮し生活環境の改善にとりくんでいます。		